

2026年度

国語科

初芝橋本高等学校A

〔注 意〕

- ①所持品は椅子の下に整頓せいとんしなさい。(机の中には何も入れてはいけません)
- ②チャイムの鳴り始めが「始め」、「終わり」の合図です。
- ③問題用紙は合図があるまで開いてはいけません。
- ④試験開始後、受験番号・氏名を記入しなさい。
- ⑤問題・解答用紙に不明な点があれば黙って手を挙げなさい。
- ⑥解答が終わっても試験終了時間まで退出できません。
- ⑦試験中、体調不良などで連絡のあるときは黙って手を挙げなさい。
- ⑧冊子の裏側にも注意事項があるので読んでおきなさい。

| | |
|------|--|
| 受験番号 | |
| 氏 名 | |

問題中の字数制限は、すべて句読点、記号等をふくみません。

一 各——について、漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直さない。

- (1) 祖父はチクサン業を営んでいる。
- (2) 面積を求めるため二点間のキヨリを測る。
- (3) ゾウムシはチユウスウ神経が一か所にある。
- (4) リサイクルするために、空き缶をツブす。
- (5) 人々が住むのに適した肥沃な土地だ。

二 二次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

空間やものを共同で使用することは、現在、しだいに少なくなる傾向にある。とりわけ、家庭の中で使用されてきたものは、家族で共用するものから個人使用されるものとデザインは変化していった。ラジオやテレビはもちろん、電話そして時としてクルマも個人使用されるものとなっている。「A」、テレビやラジオや電話そしてクルマにしても、当初から個人所有のものと考えられていたわけではない。

こうしたものの中では、比較的早くから個人所有のメディアとなったのは、ラジオである。一九五〇年代にトランジスタ・ラジオが商品化されて以来のことである。小型のトランジスタ・ラ

ジオは、アメリカでは親たちが子どもに買い与えた。というのも、五〇年代に登場したロックンロールを、家庭のラジオで流すと親たちは暗いと感じたからだ。ロックンロールを聞かずに、トランジスタ・ラジオで自分の部屋で聞けというわけである。

「B」、家族で共有しない音楽の出現とトランジスタ・ラジオの出現は偶然にも一致していた。子どもたちは、トランジスタ・ラジオを持って歩き、そこから流れてくる音楽があれば、①そこが自分の空間になった。そして、ディスクジョッキーのおしゃべりをおして、同じ世代の若者が、気分的にはつながっているという感覚を持ったのである。家族との間にはしきりができたが、ネットワークのつながりを感じたのである。——ア

テレビが家庭の中に複数持ち込まれ、個人化するのはずと後になってからだ。少なくとも、ラジオもテレビも、家族が共有し、家族のコミュニケーションのきっかけにはなっていたはずだ。それが個人化することで、共通の体験は②化していった。

コンピューターの場合は、ラジオやテレビとは異なって、当初から個人使用にむけてデザインされたものが、家庭の中に入り込んできた。それは、当初から、情報の生産と消費が個人的なものであるという認識からデザインされたからである。つまり、生産と消費は個人化されていくものだという近代の市場の流れを、一気に推し進めたといえるだろう。パソコンのデザインは、個人主義的な思想の中から生み出されたのである。

消費の個人主義は、ある意味では消費の民主化と言い換えることもできる。その結果生ずる、ものの個人所有は、所有の民主化だといえるかもしれない。「C」、所有の民主化は、個人々々をますますばらばらの存在にしていく。繰り返すが、③ものによってしきりができるからだ。ひとつの道具を共有することは、好むと好まざるとにかかわらず、共有しているメンバーとの集団的な

つながりが形成される。

「平等な消費」という思考は、個人の欲望にしたがった消費を許すということで、それは集団主義（全体主義）から個人主義への流れを強化していった。こうした傾向は、社会的な共同体だけではなく、家庭にまで及んだ。それは、さまざまなもののデザインにおいても見る事ができる。多くのものが、集団で使うことよりも個人で使用できるようなデザインになっていった。小型のラジオや電話は、ポータブルになった結果、その使い方が変化した。それだけではなく、使用者を個人化したのである。

携帯電話の出現は、家を単位としていた電話の概念を根底から変えてしまった。電話の子機の段階では、家の電話とつながりを持っていた。携帯は家とのつながりをしきってしまったのである。携帯電話の持ち主がはたして住居に住んでいるかどうかもわからない。―――(イ)

電車やバスなどの公共交通機関の中では、携帯電話の使用の禁止を呼びかけている。心臓のペースメーカーに悪い影響を与えるからと呼びかけているが、禁止についての明確な理由はあまり説得的ではないようだ。結局、多くの携帯電話使用者は、電話による会話ではなく、メールを使うようになった。しかし、携帯電話でコミュニケーションしていることには変わりない。どれほど、多くの他人に囲まれていようと、携帯電話を使った会話にしろメールにしろコミュニケーションが始まると、意識は電車やバスの中にあるのではなく、ネットの空間に入り込んでしまう。どれほど、多くの他人に囲まれていようと、そこにいる他人とは全く異なった空間の中にしきられているのである。―――(ウ)

はたして、そのことと関連するかどうかはわからないが、携帯電話の普及と同時代の現象としてよく見られることになったのが、電車の中で、女性がメイクアップをしている光景だ。それまでは

メイクアップは他者には見せないものであった。しかし、電車の中にあって、メイクアップをする女性たちは、意識的には、他者とはまったくしきられた空間にいるのである。ちょうど携帯電話でコミュニケーションしているときと同じように。

④ 家庭内の個人主義的傾向は、日本では一九八〇年代に顕著になった。住宅のデザインは、子どもの個室を持つことが一般的になり、子どもの個室には電話や音響製品などが置かれ、自足したものととなった。個室や電話や家電のパーソナル化によって、家族の人間関係が②になり^詳アトム化がすすんだ、という意見が語られてきた。家族が個人主義化することを、個室やパーソナル化した家電や家具類のデザインが促進したことは否定できないが、そうしたもののデザインは、集団主義から個人主義へと向かうわたしたちの近代に内包されていた傾向を反映しているのである。―――(エ)

【中略】

どうやら、わたしたちは、ますます「わたしのもの」といった領域を広げていくことになりそうなのである。

わたしたちの家庭では、個々人が家族集団として同じ時間や空間を共有しないような生活をする傾向をますます強めている。テレビを見ることも、パソコンを使うことも、電話をすることも個人化され、そして食事も同じ時間になくなっていく。こうした事態を、家族の崩壊として語ることが行われてきた。個人主義的傾向を、集団の崩壊と見るか、あるいは民主化の流れの中で引き起こされた変化と見るかである。わたしたちは、近代の個人主義的傾向が生み出した問題に向き合っていることは事実である。

わたしたちは、自らの個人的領域を組織するということがどのようなことなのかあまり問うことをしなのまま、個人的なものを次々に手に入れてきたのかもしれない。その結果、けして「わた

しの領域」を強固なものとするという意識はないまま、「わたし」をしきり、それぞれがアトム化してしまったということなのかもしれない。

(柏木博「しきり」の文化論)

注1 アトム化：個人と周囲の人との関係がなくなる、あるいは少なくともすること。

問一 【A】～【C】に当てはまる語として最も適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア つまり イ とはいえ ウ また

問二 ———— ①「そこが自分の空間になった」とはどういう意味か、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 音楽を通じて、周囲の人と気持ちを共有し自分の関心をアピールできるようになった。
イ 自分だけで聞く音楽によって、他者と切り離された自分の世界に没入することができるようになった。
ウ ラジオの音楽に没頭することで他者と交流することがなくなり孤立するようになった。
エ 親の好まない音楽をかけることで自分の部屋に家族が入って来られないようになった。

問三 ② に当てはまる二字の熟語として最も適当なものを次の漢字を組み合わせて答えなさい。

流 薄 過 希 動 秩 序 疎

問四 ———— ③「ものによってしきりができる」とはどういうことか。本文中の語句を用いて四十字以内で説明しなさい。

問五 ———— ④「家庭内の個人主義的傾向」を推し進めたものとして筆者が本文中に挙げているものを二十二字で抜き出し、始めと終わりの三字を答えなさい。

問六 次の一文は本文中の(ア)～(エ)のどの部分に当てはめるのが最も適当か、記号で答えなさい。

これは、現在の携帯電話にちかい感覚をもたらしたといえるだろう。

問七 本文の内容として適当なものにはA、適当でないものにはBを、それぞれ解答欄に記入しなさい。

ア 携帯電話などの個人で使用する家電の出現が家族の
関係性に影響を与えた。
イ 道具を共有することがなくなった現代では、共通の
体験を持つことは非常に困難になっている。
ウ 電車でマイクをする人は家族でテレビを見ている際
のようにリラックスしている。
エ 近代の個人主義的傾向は家族を崩壊させてしまった
め道具を共用して食い止めなければならぬ。
オ 個人主義的思想と普段使用するもののデザインは相
互に関係がある。

三 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

――漫画家になる夢を持つアヤコと、ミュージシャンを目指す宮本シンは、
中学校の卒業式で十年後にお互いの夢をかなえて会おうと約束をした。
そして、十年が経ち、再会の日が近づいたある日、シンは彼女に勧めら
れた漫画がアヤコの描いたものと気づく。高校卒業後は音楽をするこ
ともなくリネンの会社で働いていたシンは、中学時代のバンド仲間の三
村に、当時同年代の中では実力が突出していた「東京五十一区」とい
うバンドを紹介してもらい話を聞くことにした。

「宮本さん？ だっけ？ あんた、高校ン時は一通りやってたみ
たいんだけど、その後どれほどバンドやってたわけ？ なんにもやっ
てないんでしょ」

胸がどくんと鳴る。俺がひるんだのを見抜いたように、^{注1}石田

は少し口を歪めてたたみかけてきた。

「どれほどの覚悟で、今から音楽やるのか言ってるか知んないけ
どさ。俺たちは全部捨てて東京に出てったんだよ。向こうでだっ
て、バンド以外なんもねーよ。大学なんか①口実。資金稼ぐため
につまんねー肉体労働ばっかしてさ。持ってる時間と体力、全部
バンドのために使って、それでもダメだったんだよ」

【A】喋る。誰も石田を止めない。ベースの奴も、口を
動かさずじつと石田を見ている。

石田はため息をついてから、左手で頭をひと掻きした。そして
今度はうつむいて喋り出した。

「別に、趣味でやりたいってんならいいけどさあ。それで、②あ
わよくば、とか思うなよ。思ってたられちゃたまんねーよ、こっちは。
そういうの見てつと腹立つんだよ」

【B】語気が強まっていく。アヤコのマンガを見つけてし
まったときと同じ、嫌な胸騒ぎが湧き上がる。

「結局帰ってきたけどさ、みんな陰で笑ってるのわかんだよ。ほ
れ見ろ、って他人の失敗を笑ってるんだ。俺たちがどんだけの覚
悟でやってたか知らないで――」

「石田」

坊主頭が、その場に膝をついて石田の肩をつかんだ。石田は箸
を捨てて彼の手を振り払うと同時に、頭を上げて俺をにらみつけ
た。目が血走っていて、ぞつとする。

「お前だって、安心してんじゃねーの？ 『五十一区』もしよせん
あんなんもんだったんだ、って」

「やめろって。この人俺らの向こうの話なんか知らないって」

制止にかかったドラママーを、石田は「うるせーよ。言わなきゃ
気が済まないんだよ！」

と叫んで黙らせた。

「甘いんだよ！ 帰ってきたバンドの話なんか聞きにくる間に、荷物まとめて東京出る！ そういう奴しか舞台上に上がれないんだよ！」

③肺の奥までえぐられた気がした。石田の言ったことがまぎれもない事実だったからだ。俺はなんの言葉も返すことができず、しばらく石田の目を見ていた。石田も俺をにらみつけたままだ。たけれど、ふと視線を逸らすと、自分でガス抜きをするように大きく息を吐いた。

手を止めていたベースの奴が、コンビニ袋からペットボトルのお茶を出して石田に渡す。石田は「さんきゅ」と言っただけを受

け取ると、すぐに開けごくと飲み干した。

「ごめんね、こいつ最近いらついでるから」
ベースが言った。石田はそれにフンと鼻を鳴らしてから、さっきよりだいぶやわらかい口調で言った。

「言いすぎたかもしれないけど、実際、今からじゃ趣味以上にはならないでしょ。あんた、もう自分の居場所あるんだろ？ そこでヌルくやつてりゃいいじゃん」

ヌルく、という言い方にはとげがあつたけれど、無理もないことだと思つた。さっき聞かされた通り、この人たちには、俺がしなかつた「覚悟」があるんだらう。そういう場所から見れば、ずっと田舎で暮らして、ギターをしまいこんでいた俺なんて、甘すぎ

るのだ。事実として。

「……話、ありがと」
俺はやつとのこと口を開いた。三村がこつちを見たのがわかつた。石田は黙っていた。「五十一区」の三人に頭を下げて、④きびすを返す。三村が慌てたように「お邪魔しましたっ」と叫んでから俺についてきた。スタジオを出る時にもう一度、礼をした。

「いいのか？」

ドアを完全に閉めてから、三村が言った。

「じゅうぶんだよ」

俺は周りを取り囲んだ貼り紙を見ながら、ゆっくりと階段を下りる。三村はまだ戸惑っているように「ふーん」とも「うーん」とも言えない返事をした。

踊り場で足を止めた。目の前のピンクのポスターをじつと見る。イベントライブの告知だった。「出場者募集中」と書いてある。

俺がそのポスターを見ているのに気付いたのか、三村も足を止めた。

「……何？」

三村が⑤怪訝そうな声を出す。俺はジャケットのポケットから携帯電話を出して答えた。

「これに出る」

「はあ!?」

三村が叫んだ。踊り場にくつついたドア——二階の楽器店の入り口の向こうにいる高校生がこちらを振り返るのが見えた。俺はポスターを確認しながら、携帯のメモ帳に、スケジュールと連絡先の番号を入れていく。ライブの開催は三月十一日、日曜日。出場の募集は二月十日まで。セーフだ。

「お前、さっき言ったことと矛盾してないか、それ？ あいつの話に納得したんだろ？」

三村が俺の腕をつかんでまくしたてた。俺は首を横に振る。

⑥矛盾してない。あと、完全に納得したってわけじゃないし」

三村は明らかに困惑していた。「えええ」とひっくり返った声で叫んだあと、ポスターを上から下まで【C】見て言った。

「だってこれ、どう見ても昔の俺らが出てたようなイベントでしょ。地元の高校生が企画してんだぜ。ここに貼ってるのも、他校生に見てもらおうと思っただけで、幅広い年齢層の出場

を募ってるわけでは……」

「そうだろね。でも、二十歳以上限定のイベントなんてないし」

俺は入力を終えた携帯を閉じて、ぐるりと周りを見渡してみた。階段の両側を囲む貼り紙は、ほとんど高校生^イの手によるものだとわかる。ちょっと金^ウのかかっているようなポスターもあつたけれど、そういうのは地元で活動が続いているバンド^エの単独ライブの告知だった。

十八を過ぎたら、田舎から出るか、音楽をやめるかしかない。ここにビラを貼った高校生も、多くはどちらかを選択するのだ。ここに居て続ける、という^オのは極めて稀な例だから、ひとりであるとなったら高校生に混ぜてもらうしかない。

(中略)

「俺、もうドラムやんないと思うけど」

梅干しでも食べたようなしかめつつらをして三村が言った。

「すげえ楽しかった、って思うのは変わんないよ」

俺に覚悟がなかった、というのはその通りだ。「五十一区」は十八歳で覚悟をして東京に飛び出していったのだ。俺は漫然と田舎に居て、「どうせ俺なんか」とわかつたつもりで何もしなかった。

「東京五十一区」より才能がないことは明らかなのだから、これから全国区なんてどうしたって無理だろう。ただ、もう一度選択をしたいのだ。こんな、中途半端な気持ちのままアヤコに会いたくない。まだやれると思いつながらやらないでいる、ただなんとなく流されてここに居たんだ、なんて言いたくない。結果がどうであれ、俺は自分でこの選択をしたんだと言いたい。

俺はイベントの主催者に電話をかけて、出場を申し込んだ。

二十五歳でしかも弾き語り、というのに、高校生らしき相手は

「D」引いていたけれど、それでも断らなかつた。

(豊島ミホ「エバーグリーン」)

注1 石田：「東京五十一区」のボーカル。「ベース」「坊主頭」もバンド

のメンバー。

問一 「A」～「D」に当てはまる語として最も適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア あからさまに
- イ だんだん
- ウ とうとうと
- エ じろじろと

問二

①「口実」・④「きびすを返す」・⑤「怪訝^{けげん}」の意味として最も適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① ア 何かをするための表向きの理由。
- イ 他人の言動を納得するための説明。
- ウ 取るに足らないものたとえ。
- エ 誰にも言えず一人抱え込んだ秘密。

- ④ ア あいさつを返すこと。
- イ うなづくこと。
- ウ 手を振ること。
- エ ひき返すこと。

⑤

ア 疲労困憊の様子。
イ 不審に思う様子。
ウ 緊迫した様子。
エ 落ち着き払った様子。

問三

——「ア」の「の」を、働きごとに分けた組み合わせとして正しいものを、次から一つ選び記号で答えなさい。

ア ア・エ／イ・オ／ウ
イ ア・オ／イ・エ／ウ
ウ ア・オ／イ・ウ・エ
エ ア・ウ・オ／イ・エ

問四

——②「あわよくば、とか思うなよ」とあるが、「石田」は「俺」に対してどのようなことを思うなど言っているのか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア うまくいけば、プロのミュージシャンになれるかもしれない。
イ うまくいけば、「五十一区」の一員になれるかもしれない。
ウ 好機を得られれば、「五十一区」のライバルになれるかもしれない。
エ 好機を得られれば、地元の有名企業に就職できるかもしれない。

問五

——③「肺の奥までえぐられた気がした」のはなぜか。本文中の表現を用いて四十五字以内で答えなさい。

問六

——⑥「矛盾してない。あと、完全に納得したってわけじゃないし」とあるが、このときの「俺」の気持ちを本文中から十字以内で抜き出して答えなさい。

問七

——本文の内容と合致しないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「東京五十一区」は高校卒業後、東京でデビューを目指したが果たすことができず郷里に戻ってきている。
イ 「俺」はアヤコが漫画家になったことに触発されて、もう一度夢を追いかけてみようかと決意した。
ウ 「俺」の中学時代のバンド仲間である三村は、自分のできる範囲で「俺」を支えようとしている。
エ 「俺」の地元では、高校卒業後も地元に残って音楽を続ける人はほとんどいなかった。

四 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

法ほつげんさんぞう頭三蔵の、注注1天竺にわたりて、故郷ふるさとの扇を見ては悲しび、病に伏しては注注2漢の食を願ひ①給ひけることを聞aきて、「②さばかりの人の、注注3無下むげにこそ③心弱こころき気色きしきを、人の国にて見え給ひけれ」と人の言ひしに、弘融僧都こうゆうそうず、「優あまに情けありける三蔵かな」と言bひたりしこそ、法師の④やうにもあらず、注注4心にくく覚えしか。

〔徒然草〕

注1 天竺：インドのこと。

注2 漢：中国のこと。

注3 無下にこそ：むやみと。

注4 心にくく：奥ゆかしく。

問一 ———— ①「給ひ」・④「やうに」を、現代仮名遣いに改め

なさい。漢字もすべて平仮名で答えること。

問二 ———— ②「さばかりの人」は誰をさしているか、本文中から抜き出して答えなさい。

問三 ———— a「聞きて」・b「言ひたりしこそ」の主語は誰か、最も適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | |
|---|------|---|----|
| ア | 法頭三蔵 | イ | 人 |
| ウ | 弘融僧都 | エ | 筆者 |

問四 ———— ③「心弱き気色」を具体的に説明した部分を本文中

中から過不足なく抜き出し、始めと終わりの五字を答えなさい。

問五 本文の内容として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- | | |
|---|-------------------------------|
| ア | 筆者は、弘融僧都が人の心を理解している様子に感心している。 |
| イ | 筆者は、弘融僧都が法頭三蔵を非難する様子にあきれている。 |
| ウ | 弘融僧都は、法頭三蔵の気の弱さを気の毒に思い同情している。 |
| エ | 人々は、人間らしい法頭三蔵を僧として高く評価している。 |

〔解答用紙の記入に関する注意事項〕

①受験番号を記入する際は、算用数字を記入し、対応する枠内を丁寧にぬりつぶしなさい。【悪い例】のような場合は、読み取れないことがあります。

【良い例】



濃くはっきりと
塗りつぶしている

【記入例】 受験番号が「1324」の場合

| 受験番号 | | | |
|------|---|---|---|
| 1 | 3 | 2 | 4 |
| 0 | 0 | 0 | 0 |
| ● | 0 | 0 | 0 |
| 2 | 2 | ● | 2 |
| 3 | ● | 3 | 3 |
| 4 | 4 | 4 | ● |
| 5 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 6 | 6 | 6 |
| 7 | 7 | 7 | 7 |
| 8 | 8 | 8 | 8 |
| 9 | 9 | 9 | 9 |

【悪い例】



輪郭をなぞっただけ



線を引いただけ



チェックを記入しただけ



塗りつぶす箇所が小さい



はみ出している



塗りつぶし方が薄い

②解答は解答用紙の枠からはみ出さないように記入しなさい。正しく記入されていない場合は、採点できないことがあります。

③解答を直す際は、消しゴムを使ってきれいに消しなさい。消し忘れや消し方が不十分だと採点できないことがあります。

氏名

受験番号

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |

得点 (記入しないこと)

- 一 (1) 畜産 (2) 距離 (3) 中枢 (4) 潰 (5) ひよく 各2点

- 二 問一 A イ B ア C ウ 各2点 問二 イ 3点 問三 希薄 3点

問四 物事を共有せず個人で使用する
ことにより、他者とのつながりが
なくなるとのこと。
(同意可) 6点

- 問五 個室や、ザイン (完答) 3点 問六 ア 4点

- 問七 ア A イ B ウ B エ B オ A 各2点

- 三 問一 A ウ B イ C エ D ア 各2点

- 問二 ① ア ④ エ ⑤ イ 各3点 問三 イ 3点 問四 ア 3点

問五 今の生活を全部捨てる覚悟
もないのに舞台に立ちたい
と思う自分の甘さを指摘さ
れたから。
(同意可) 6点

- 問六 もう一度選択をしたい 3点 問七 イ 3点

- 四 問一 ① たまい ④ ように 各2点 問二 法頭三蔵(法頭ノ三蔵) 3点

- 問三 a イ b ウ 各3点

- 問四 故郷の扇を、ひ給ひける 4点 問五 ア 3点